



平成26年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 株式会社ボルテージ

上場取引所 東

コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横田 晃洋

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 佐藤 裕樹

TEL 03-5475-8193

四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第2四半期の連結業績(平成25年7月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第2四半期	4,837	4.6	265	260.6	292	254.2	112	343.0
25年6月期第2四半期	4,624	—	73	—	82	—	25	—

(注)包括利益 26年6月期第2四半期 121百万円 (217.8%) 25年6月期第2四半期 38百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第2四半期	22.28	21.88
25年6月期第2四半期	5.11	4.99

(注)平成25年6月期第1四半期から四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年6月期第2四半期	4,544	3,398	74.6
25年6月期	4,322	3,327	77.0

(参考)自己資本 26年6月期第2四半期 3,390百万円 25年6月期 3,327百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	19.00	19.00
26年6月期	—	0.00	—	—	—
26年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年6月期の配当予想は未定としております。

3. 平成26年6月期の連結業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	10.0	500	69.3	500	45.5	200	41.9	39.16

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

1. 上記の1株当たり当期純利益は、本四半期決算短信の発表日現在における発行済株式総数(5,107,567株)を基に算出しております。

2. 平成26年6月期の個別業績予想につきましては、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
- ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
- ③ 会計上の見積りの変更 ： 無
- ④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年6月期2Q	5,101,662 株	25年6月期	5,034,258 株
② 期末自己株式数	26年6月期2Q	228 株	25年6月期	228 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年6月期2Q	5,057,531 株	25年6月期2Q	4,982,068 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えする中で、家計所得や投資が増加しており、企業収益は改善しました。また、個人消費は、一部消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要も見られ、増加しました。

モバイルビジネスを取り巻く環境として、スマートフォン契約比率(注1)は、平成25年9月末の42.2%から、平成26年3月末には46.6%、平成27年3月末には53.6%に増加し過半数に達すると予測されています(注2)。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をひたむきに追究しつづけると共に、当期は、以下を中期目標の達成戦略として事業拡大に努めています。

1. OS系ファースト
2. サスペンスドラマアプリ(旧 男女向けコンテンツ)及び海外市場向けの拡張
3. 12ヶ月回収テレビCM

なお、この度、当社が提供する、モバイル端末で気軽に楽しむことができるストーリー型のコンテンツを新たに「ドラマアプリ」とし、更なる事業展開を図ります。「ドラマアプリ」は、恋愛やサスペンスといった様々なストーリーをユーザー自らが主人公となって読み進めることができ、ゲームでもマンガでもない、新しいスタイルのエンターテインメントです。

売上は、国内市場において、パーソナルアプリは、キャリア公式PF(注3)向けがPF環境の急変を受け想定通り大きく減少しましたが、OS系PF(注4)向けが前年同期比で増加しました。ソーシャルアプリは、既存タイトル及び新規タイトルの一部が好調であり、OS系PF向けが前年同期比で大きく増加しました。また、海外市場において、本社発タイトル、SFスタジオ(注5)発タイトルともに、順調に増加しました。全体としては、前年同期比及び計画比で増加しました。

費用は、ソーシャルアプリ売上・OS系PF向け売上の増加による販売手数料の増加、増員による人件費の増加、オフィス増床による賃料の増加等がありました。広告宣伝費については、第1四半期に大規模なテレビCM出稿を実施しましたが、全体としては効率的に使用し、前年同期比で大幅に減少しました。

利益は、主に売上の増加に伴い、前年同期比及び計画比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高4,837,391千円(前年同期比4.6%増)、営業利益265,204千円(前年同期比260.6%増)、経常利益292,655千円(前年同期比254.2%増)、四半期純利益112,701千円(前年同期比343.0%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間の主な取り組みは、以下の通りであります。

(パーソナルアプリ)

恋愛ドラマアプリは、第2四半期の新規タイトル「スイートルームで悪戯なキス」が好調に立ち上がり、計画を上回りました。サスペンスドラマアプリは、運営体制の確立を図り、下期投入予定の新編の企画を進めてきました。

海外市場向けは、新規タイトル「Dreamy Days in West Tokyo(注6)」が順調に立ち上がりました。

集客は、平成25年12月にコンテンツ横断キャンペーンを実施し、計画以上の効果が得られました。

(ソーシャルアプリ)

第2四半期の新規タイトル「ゴシップガール～セレブな彼の誘惑～」が好調に立ち上がり、大幅に計画を上回りました。既存タイトル「王子様のプロポーズⅡ」「王子様のプロポーズ」「誓いのキスは突然に」も好調に推移しました。

集客は、OS系PF向けのモバイル広告出稿等を行い、概ね計画通りの効果が得られました。

(SFスタジオ)

新規タイトル「White Lies & Sweet Nothings(注7)」「Speakeasy Tonight(注8)」を投入しました。既存タイトルは、引き続き、購買メカニズムに基づいたKPI測定とPDCA運用の強化を図りました。

- (注) 1. スマートフォン契約比率: スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合
2. 出所: 株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測 (2013年10月)」平成25年10月9日発表
3. キャリア公式PF: NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト
4. OS系PF: App Store、Google Play等のアプリマーケット
5. SFスタジオ: 米国サンフランシスコにある当社子会社
6. 邦題: 「吉祥寺恋色デイズ」 7. 邦題: 「誓いのキスは突然に」 8. 邦題: 「マフィアナダーリン」

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、4,544,256千円（前連結会計年度末比221,975千円増）となりました。

流動資産は、3,699,513千円（前連結会計年度末比125,997千円増）となりました。その主な要因は、現金及び預金が123,420千円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、844,742千円（前連結会計年度末比95,977千円増）となりました。その主な要因は、無形固定資産が58,054千円増加、投資その他の資産が22,937千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、1,146,205千円（前連結会計年度末比151,275千円増）となりました。

流動負債は、1,145,837千円（前連結会計年度末比151,716千円増）となりました。その主な要因は、未払費用が112,221千円減少した一方で、未払法人税等が187,271千円増加、未払金が29,962千円増加、買掛金が25,438千円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、368千円（前連結会計年度末比441千円減）となりました。その要因は、長期未払費用が441千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、3,398,050千円（前連結会計年度末比70,699千円増）となりました。その主な要因は、資本金が18,467千円増加、資本剰余金が18,467千円増加、利益剰余金が17,054千円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して123,420千円増加し、1,907,370千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、未払費用の減少112,221千円等があったものの、税金等調整前四半期純利益292,647千円、ソフトウェア償却費65,132千円、減価償却費及びその他の償却費59,590千円等があったことにより、355,848千円の資金を得る結果（前年同期は94,965千円の資金を支出する結果）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、コンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出107,773千円、PCやサーバー等の有形固定資産の取得による支出57,078千円、投資有価証券の取得による支出13,371千円等により、179,154千円の資金を支出する結果（前年同期は232,367千円の資金を支出する結果）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、新株発行による収入15,915千円があったものの、配当金の支払94,763千円があったこと等により、78,847千円の資金を支出する結果（前年同期は86,960千円の資金を支出する結果）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年6月期の連結業績予想については、第3四半期以降も、中期目標の達成戦略「OS系ファースト」「サスペンスドラマアプリ及び海外市場向けの拡張」「12ヶ月回収テレビCM」を推進していくことにより、順調に推移するものと見込んでおります。

具体的には、以下の取り組みを行います。

1. OS系ファースト

(パーソナルアプリ) シリーズ導客の強化

(ソーシャルアプリ) 100%ネイティブ第2世代の投入

2. サスペンスドラマアプリ及び海外市場向けの拡張

①サスペンスドラマアプリ 第3四半期に新コンテンツの投入

②海外市場向け

(パーソナルアプリ) USオリジナルの推進、英語翻訳版のSFスタジオへの一部移管

(ソーシャルアプリ) 大型北米版の検討

3. 12ヶ月回収テレビCM

「吉祥寺恋色デイズ」のアニメ風CM(恋色篇)の実施

以上の結果、平成26年6月期の連結業績予想は、平成26年1月31日付の「平成26年6月期 連結業績予想及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」でも公表しました通り、売上高は10,000百万円(前連結会計年度比10.0%増)、営業利益は500百万円(同69.3%増)、経常利益は500百万円(同45.5%増)、当期純利益は200百万円(同41.9%増)を見込んでおります。

また、平成26年6月期の個別業績予想は、以下の通り、見込んでおります。

平成26年6月期の個別業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	9,900	8.8	780	52.6	780	39.6	480	34.8	93.98

(注)上記の1株当たり当期純利益は、本四半期決算短信の発表日現在における発行済株式総数(5,107,567株)を基に算出しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,783,950	1,907,370
売掛金	1,715,903	1,697,761
前払費用	67,688	60,884
繰延税金資産	16,405	36,917
その他	1,186	1,755
貸倒引当金	△11,618	△5,176
流動資産合計	3,573,516	3,699,513
固定資産		
有形固定資産	224,223	239,208
無形固定資産	248,010	306,064
投資その他の資産	276,531	299,469
固定資産合計	748,764	844,742
資産合計	4,322,280	4,544,256
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,157	115,595
未払金	7,242	37,205
未払費用	797,995	685,774
未払法人税等	33,963	221,235
賞与引当金	—	2,299
その他	64,760	83,726
流動負債合計	994,120	1,145,837
固定負債		
長期未払費用	809	368
固定負債合計	809	368
負債合計	994,929	1,146,205
純資産の部		
株主資本		
資本金	887,762	906,230
資本剰余金	853,362	871,830
利益剰余金	1,566,550	1,583,605
自己株式	△196	△196
株主資本合計	3,307,479	3,361,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	247
為替換算調整勘定	19,872	28,540
その他の包括利益累計額合計	19,872	28,788
新株予約権	—	7,792
純資産合計	3,327,351	3,398,050
負債純資産合計	4,322,280	4,544,256

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	4,624,703	4,837,391
売上原価	1,207,473	1,653,780
売上総利益	3,417,229	3,183,610
販売費及び一般管理費	3,343,682	2,918,405
営業利益	73,547	265,204
営業外収益		
受取利息	398	299
為替差益	8,496	26,764
雑収入	182	387
営業外収益合計	9,077	27,450
経常利益	82,625	292,655
特別損失		
固定資産除却損	514	7
特別損失合計	514	7
税金等調整前四半期純利益	82,110	292,647
法人税、住民税及び事業税	56,271	212,181
法人税等調整額	395	△32,234
法人税等合計	56,667	179,946
少数株主損益調整前四半期純利益	25,443	112,701
四半期純利益	25,443	112,701

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	25,443	112,701
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	247
為替換算調整勘定	12,827	8,668
その他の包括利益合計	12,827	8,916
四半期包括利益	38,270	121,618
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,270	121,618

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	82,110	292,647
減価償却費及びその他の償却費	30,252	59,590
ソフトウェア償却費	41,661	65,132
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	2,299
株式報酬費用	—	28,812
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,503	△6,442
固定資産除却損	514	7
受取利息及び受取配当金	△398	△299
為替差損益 (△は益)	—	△16,905
売上債権の増減額 (△は増加)	△74,798	18,142
仕入債務の増減額 (△は減少)	22,675	25,438
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△22,060	22,595
未払費用の増減額 (△は減少)	7,497	△112,221
その他	10,310	3,345
小計	92,261	382,144
利息及び配当金の受取額	398	299
法人税等の支払額	△187,625	△26,594
営業活動によるキャッシュ・フロー	△94,965	355,848
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△99,581	△57,078
無形固定資産の取得による支出	△118,397	△107,773
敷金及び保証金の差入による支出	△14,387	△931
投資有価証券の取得による支出	—	△13,371
投資活動によるキャッシュ・フロー	△232,367	△179,154
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	6,756	15,915
配当金の支払額	△93,716	△94,763
財務活動によるキャッシュ・フロー	△86,960	△78,847
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,662	25,574
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△395,629	123,420
現金及び現金同等物の期首残高	1,931,033	1,783,950
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	189,761	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,725,164	1,907,370

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。